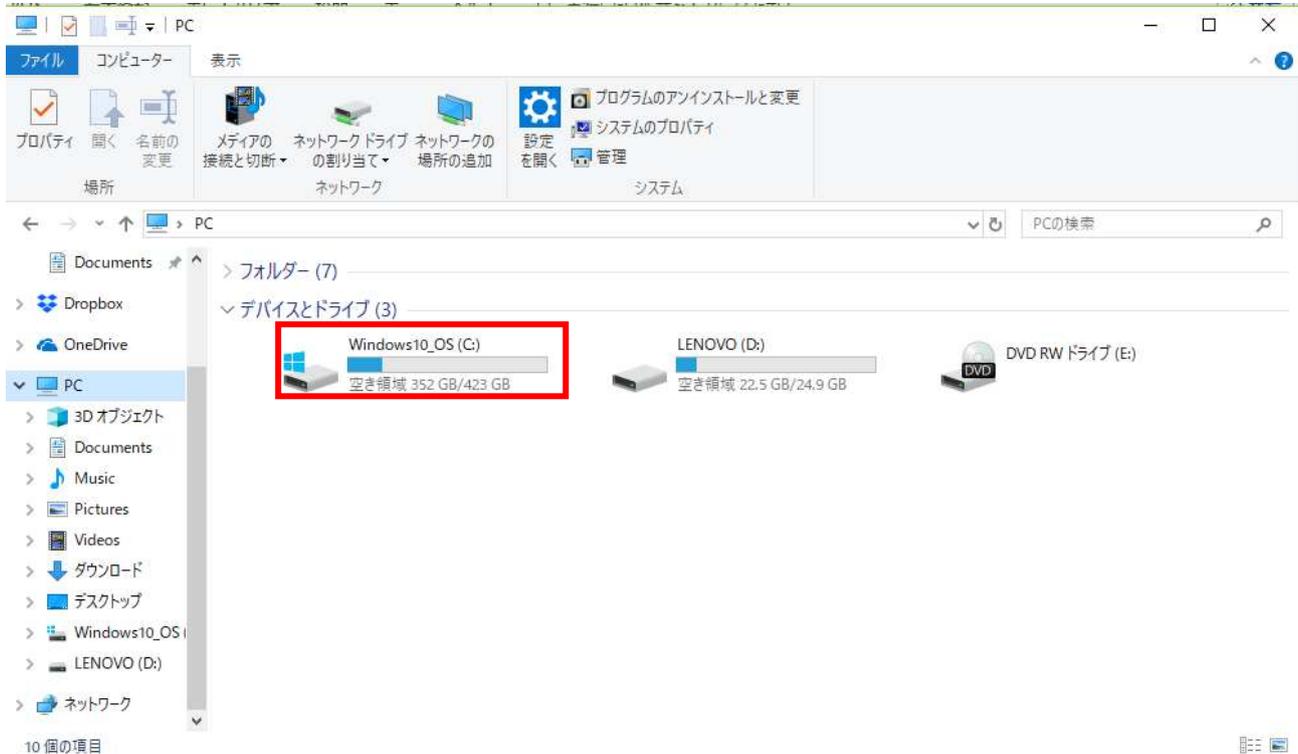


CドライブはなぜCドライブ

Windows パソコンを使うとき、『Cドライブ』という単語が良く使われています。この単語は、『C』と『ドライブ』に分けられます。



『ドライブ』とは、またなぜ『A』ではなく『C』なのでしょう。

それは、『Windows』の前身の『MS-DOS』のそのまた前身のシアトルコンピュータの『86-DOS』が、その一部を模倣した 1976 年に発売されたデジタルリサーチの 8 ビット CPU 用の OS である『CP/M』に始まっています。

『CP/M』は 8 ビット CPU（同時に計算ができる数が 8 ビット分 (0~255) の CPU) のシステムソフトとして作成され、そのシステムソフトは 8 インチフロッピーディスクに格納されていました。

パソコンのデータを記録するものを媒体いいます。また、媒体を読み取る装置を『ドライブ』(駆動装置)と名付けました。媒体と駆動装置が分かれている『ドライブ』としてフロッピーディスクと駆動装置や光ディスクである CD、DVD、ブルーレイディスクと駆動装置などがあり、一体となっている『ドライブ』としてハードディスクドライブ (HDD)、ソリッドステートドライブ (SSD) があります。また、駆動装置には内臓されているものと外付けするものがあります。

装置としての『ドライブ』は、記憶する単位 (ほかに『ファイル』や『フォルダー』があります) の名前として使われるようになり、その単位を識別するための名前を付けるた

めにアルファベット1文字 (『A』～『Z』) が使われました。このアルファベット1文字を『ドライブレター (ドライブ文字)』といいます。

『CP/M』はシステムソフトが格納されているフロッピー装置の『ドライブ』に『A』と名前を付け、データ用のフロッピー装置の『ドライブ』に『B』と名前を付けました。その後、『CP/M』でハードディスクドライブを使用できるようになりましたが、すでに『ドライブレター』として『A』、『B』が使われていましたので『C』と名前を付けました。

ハードディスクドライブからシステムを起動できるようになり、『Cドライブ』がシステムソフトを格納する『ドライブ』となりました。

今では、フロッピーディスク駆動装置を内蔵する Windows パソコンは販売されていないため『Aドライブ』『Bドライブ』は使用されなくなっています。

元々『ドライブ』は装置を表す単語でしたので装置単位に付けられていたのですが、システムソフトでハードディスクドライブの同一のドライブ (装置) を『パーティション』を分けてあたかも別の装置のように利用できるようになり、『ドライブ』は装置を表す単語から、『パーティション』を表す単語になりました。ソリッドステートドライブもハードディスクドライブと同様に『パーティション』に分けることができます。Windows10ではUSBメモリーも『パーティション』分割ができます。

光ディスクであるCD、DVD、ブルーレイディスクやSDメモリーは『パーティション』に分割できないため一つの『ドライブ』として管理されます。

『ドライブレター』は、パソコンに接続したときアルファベット順に自動的に付けられますが、自動的に付けられたあとで別の『ドライブレター』に変更することもできます。